

心理学〈H03A〉

配当年次	全学年
授業科目単位数	4
科目試験出題者	兵藤 宗吉
文責(課題設題者)	兵藤 宗吉
教科書	指定 兵藤 宗吉・緑川 晶『心の科学 理論から現実社会へ』[第2版]以降 (ナカニシヤ出版)

《授業の目的・到達目標》

科学としての視点で心理学を学び、学んだ内容を日常生活の中で応用できるようになることを目標とします。特に司法と心理学の関わりを通じて、心理学的視点の重要性を理解することを目指します。

《授業の概要》

大学で学ぶ心理学は、実験や調査などの客観的な方法を通じて、心理現象やヒトの行動についての原理や法則を明らかにしようとする科学の一分野です。「相手の心を読む」や「悩んだ人を助ける」ことが心理学だと思っている人にとっては、最初は戸惑いを感じるかも知れません。しかし、心理学研究によって得られた知見は、日常生活のすべての場面において影響を与え、実際に応用されています。心理学を学ぶことによって、これまでとは異なる視点で人間(自分や他者)を見つめ直すことができるという意味でも、心理学は社会生活において必ず役立つと思います。

授業では、心理学の定義、歴史、方法、神経、知覚、記憶、発達、臨床などのテーマについて学びます。

《学習指導》

心理学と関連の強い「哲学」、「社会学」を履修することが望ましい。

《成績評価》

試験(科目試験またはスクーリング試験)により最終評価する。

心理学〈H03A〉

- ◎課題文の記入：必要（課題記入欄に課題文を書き写すこと）
- ◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

第1 課題

認知心理学における長期記憶である「意味記憶」、「エピソード記憶」、「手続的記憶」、「自伝的記憶」とは何か説明しなさい。また、これらの記憶のうち「手続的記憶」と「自伝的記憶」について、自分の経験、体験をもとに、それらの特徴を具体的に説明しなさい。

第2 課題

行動主義、認知主義、状況主義における「学習」の定義と「学習の成立過程」を説明しなさい。また、「学習」の日常生活での例を2つあげなさい。その際、しっかりと上記3つの主義における学習の成立過程と対応させて説明すること。

第3 課題

発達障害について概説した上で、「発達障害の強み」について述べ、強みから発達障害を見直すことに対する私見を述べなさい。

第4 課題

フロイトの精神分析、ロジャースのクライエント中心療法、ベックの認知行動療法について、それぞれの理論の基本的な考え方を説明しなさい。また、日常生活において、自分なりの上記の理論の応用について具体例をあげて考察しなさい。

〈推薦図書〉

佐藤 浩一・越智 啓太 他	『自伝的記憶の心理学』（2008 年）	北大路書房
下山 晴彦・大塚 雄作 他（編）	『誠信 心理学辞典』〔新版〕（2008 年）	誠信書房
市川 伸一	『学習と教育の心理学』〔増補版〕（2011 年）	岩波書店杉山 登志郎
杉山 登志郎	『発達障害のいま』（2011 年）	講談社
森谷 寛之	『臨床心理学への招待』（2018 年）	サイエンス社